



2011年度事業報告・決算承認

定時社員総会

6月16日に開催した京都保健会定時社員総会は、2011年度事業報告、決算、定款変更等の議案を全員一致で承認し、補充役員を選任しました。承認された事業報告、決算の概要は次のとおりです。

1 市内病院構造転換事業計画の執行

昨年10月、京都民医連中央病院西館は、上京病院と吉祥院病院30床（医療養病床）を移動し、112床で開設しました。中央病院は本館と合わせて411床化、京都市北西部の急性期・教育病院として、医療の質向上、総合的な地域医療連携の推進、救急機能、集中治療などの急性期医療と回復期、慢性期医療の拡充をめざしました。今年度は、更なる急性期医療とリハビリの充実、2年連続初期研修フルマッチと研修の充実、西館各病棟のフル稼働、慢性期医療認定病院取得、医療機能評価（緩和ケア）の取り組みをすすめます。上京診療所は、病院の外來・在宅機能を引



京都民医連中央病院西館



上京診療所

き継ぐ形で開設し、漢方やフットケア、在宅分野では看取りを含むターミナルケア・難病・認知症などを新たに展開しました。上京健康友の会は、診療案内、インフルエンザワクチン受付等で診療所を支え、会員を拡大し患者数は増えています。総合ケアステーション太秦安井は、訪問看護ステーションさわやか・優歩をもみじに統合・移転、ヘルパーステーションあかり、居宅介護支援中央病院を含め、昨年5月に開設しました。その後、中央病院から訪問リハビリを移管し、京都市北西部の介護



総合ケアステーション太秦安井

事業拠点として活動しています。また、上京地域でも介護事業の再編を進めています。昨年度の事業・経営活動の到達から、構造転換事業計画は成功したと評価します。

2 新綱領を力に「いのちの平等」の実現めざす

東日本大震災・福島原発事故に対し、京都に避難された方への支援活動、原発を間近にする北部事業所独自の脱原発も取り組みました。脱原発等の一致点での共同が広がり、京都市長選挙は、いのち輝く市政をめざし奮闘しました。社会保障切り捨て、生活保護抑制キャンペーン等、格差と貧困が拡大する中、制度拡充の運動と共に、無料低額診療（相談活動）を取り組みました。一昨春秋、中央病院から発信した外來高額医療費負担の軽減を求める運動は、今年4月からの外來現物給付化に結実しました。共同組織は会員数2万5403人（世帯）、前年度比99・1%と減少しました。上京健康友の会は診療所化のものとで会員数が増加したことは教訓的、また、朱雀、仁和、久世、綾部、福知

山も増加しました。拡大目標に対し病院組織50%、診療所組織80%と低く、一進一退の状況が続いています。

3 公益社団法人認定、法人管理機構の再編

昨年4月、京都保健会は公益社団法人に移行しました。全日本民医連では4つの法人が移行し、「無差別・平等、室料差額無し、無低事業」等の民医連医療が、公益事業として法的に認知されました。

病院再編により、法人管理機構をブロックから地域管理会議、地域理事・社員会議に移行し、また、京都市内北西部を対象に介護事業所管理会議を設置しました。法人事務局は、地域理事・社員会議の開催、新人事システム稼働、内部監査等を開始しました。

4 2011年度決算の特徴

2011年度予算は、①何としても経常利益確保、②事業収益148億円をめざし、①は、全事業所の奮闘で事業収益比1・3%（医療介護事業）、予算を超過達成しました。②は、2013年度目標にしていた150億円を2年前倒しで達成しました。